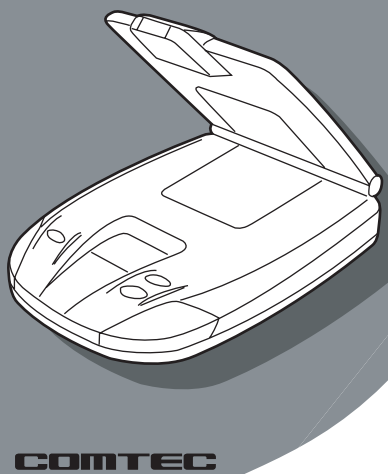




## BF-210SCL 取扱説明書／保証書

この度はベストワンシリーズをお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。本書には取付けおよび操作手順が説明されています。本製品を正しくお使いいただくために、ご使用前に必ず本書をお読みください。又、お読みになった後は、いつでも見られるよう大切に保管してください。

目次	ページ
ご使用上の注意	2
各部の名称	4
ご使用にあたって	6
ご使用前の充電	7
取付け方法	8
機能と操作方法	12
警報方法	21
取締りの種類と方法	23
その他	26



COMTEC

## ご使用上の注意

ご使用前に、この「ご使用上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、注意事項には危害や損害の大きさを明確にする為に誤った取扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに分けています。

**警告**：警告を無視した取扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う原因となります。

**注意**：注意を無視した取扱いをすると、使用者が障害や物的損害を被る可能性があります。

### 警告

- 本製品を分解・改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 運転中は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。わき見運転は、事故の原因となります。
- 本製品は、運転や視界の妨げにならない場所に取付けてください。事故や怪我の原因となります。
- 本製品の取付けは車輻の機能（ブレーキ、ハンドル、エアバック等）の妨げにならない場所に取付けてください。
- 本製品の取付けは確実に行ってください。走行中に外れたり、落下した場合事故、ケガの原因となります。
- 本製品が万一、破損・故障した場合は、すぐに使用を中止して販売店へ点検・修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電・車の故障原因となります。
- 本製品を水につけたり、水をかけたりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本製品を医療機器の近くで使用しないでください。電波により医療機器に影響を与える恐れがあります。
- 本製品に付属のシガープラグを接続したままの状態でお車から離れる（エンジン停止）場合は、必ず本製品の電源をオフしてください。イグニッションキーオフの状態でも、シガーライターに電源が供給される車種があります。ご注意ください。

2

## ご使用上の注意

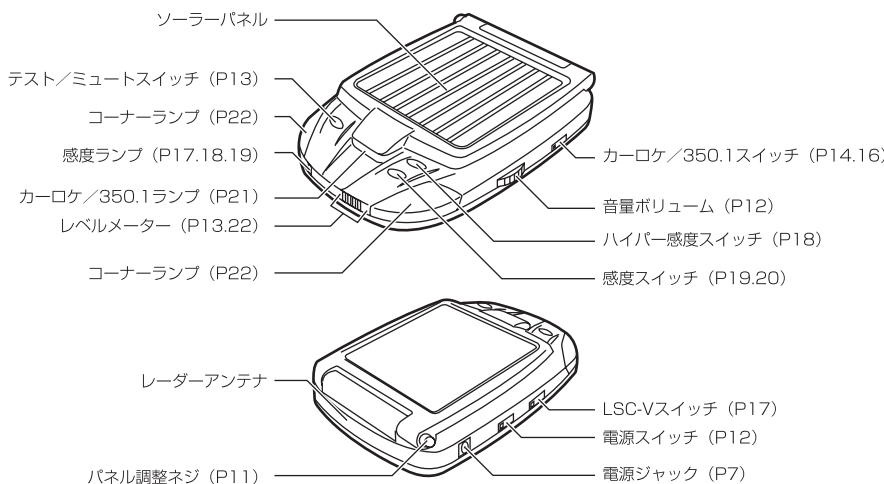
### 注意

- フロントガラス上部にスモーク/ブロンズ処理等がある車種は本製品の取付け位置によってはソーラーパネルへの光量不足の為、正常な充電ができない場合があります。その場合、本製品の取付け位置を変更するか、付属のシガープラグをご使用ください。
- 本製品にはお買い上げの日から1年間の製品保証がついています。（但し、内蔵電池、吸盤、両面テープ等の消耗品は保証の対象となりません）
- 本製品はレーダー式（X・Kバンド）取締り機、カーローケーターシステム、取締り用連絡無線350.1MHzのみ有効で、光電管式、ループコイル式、LHシステム式、ワイヤー式等の方式による速度取締り機には反応しません。
- 断熱ガラス（金属コーティング、金属粉入り等）装着車はレーダー波の透過率が低い為、受信距離が極端に短くなる恐れがあります。
- 一部のナビゲーションシステム装着車において、ナビゲーションシステムからの漏れ電波がレーダー波と同一周波数の場合、排除できない事があります。
- レーダー波と同一周波数のマイクロ波を利用した機器（下記）周辺で本製品が警報を行う事があります。これは誤作動ではありません。あらかじめご了承ください。（自動ドア、防犯センサー、車輻通過計測器、気象用レーダーの一部、航空用レーダーの一部）
- 内蔵バッテリーは約5年が交換の時期となりますが、使用状況によっては寿命が短くなります。
- 部品の交換、修理、パーツ購入に関しましては、販売店にお申し付けください。
- 本製品を厳寒地でご使用になる場合、内蔵バッテリーの性能が十分に発揮できない場合があります。付属のシガープラグをあわせてご使用ください。
- 環境保護と資源の有効利用をはかる為、寿命となった本製品、内蔵バッテリーの回収を弊社にて行っています。
- 本製品を取付けての違法行為（スピード違反等）に関しては、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 本製品の仕様及び外観は改良の為、予告なく変更する事があります。ご了承ください。

3

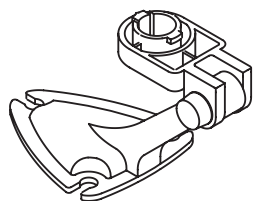
## 各部の名称

（注）・取扱説明書内の製品イラストと実際の製品は一部形状等が異なる場合があります。

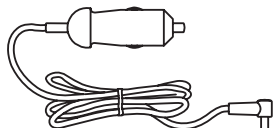


4

## 各部の名称 (付属品)



フロント/ダッシュ兼用ステー (1個)



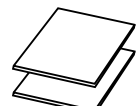
シガープラグ (1個)



サンバイザーステー (1個)



吸盤 (3個)



両面テープ (2枚)

5

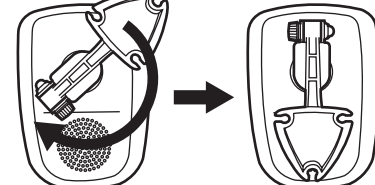
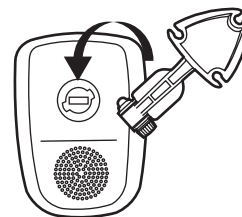
## 取付け方法

### 本製品お取付けの前に

- ・フロントガラス上部のスモーク・ブロンズ処理部付近へのお取付けは、正常な充電ができない場合があります。付属のシガープラグをご使用ください。
- ・フロントガラスがUVカットガラス等の場合、ソーラーパネルへの光量不足の為、正常な充電ができない場合があります。付属のシガープラグをご使用ください。
- ・運転や視界の妨げにならず、車輻の機能（エアバック等）に影響のない場所に取付けてください。

### フロント/ダッシュ兼用ステーの取付け方法

- 1 ステーのツメ部分を本体底面の凹にあわせてはめ込みます。
- 2 ステーをゆっくりと矢印方向にまわし、向きを調整します。



（注）ステーを逆方向にまわしたり、無理にまわしたりした場合、本製品を破損する恐れがあります。

8

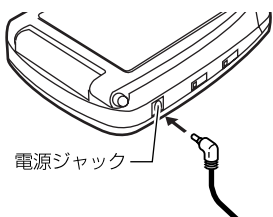
## ご使用前の充電

ご使用前に必ず十分な充電を行ってください。

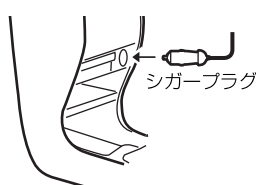
本製品は、商品出荷時には検査用予備充電のみされています。長時間、充電しないと内蔵バッテリーが自然放電します。初めてご使用になる時は必ず付属のシガープラグを使用し、本製品の電源をオフの状態ではエンジンをかけて2時間以上充電してください。（充電は断続的に行う事も可能です。その場合、目安として4時間以上充電してください）

### 充電の方法

- 1 製品本体の電源ジャックに付属のシガープラグを差し込みます。
- 2 車輻シガーソケットに付属のシガープラグを差し込みます。
- 3 車輻のエンジンを始動した状態で充電を行ってください。



電源ジャック



シガープラグ



7

## ご使用にあたって

本製品は、通常の使用状況においてソーラーパネルの発電量と回路消費電力のバランスがとれるように設計されています。ただ、下記のような場合、発電量が不足しローバッテリーサイン（内蔵バッテリー充電不足）が表示される事があります。もしこのような症状が現れた場合、付属のシガープラグを使用して定期的に充電を行ってください。

屋内駐車場・ガレージ等、太陽光の直接当たらない場所での長時間駐車



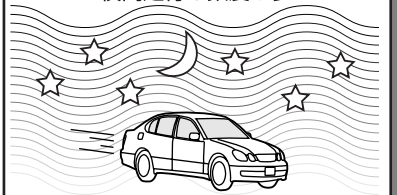
冬季・梅雨時等、曇りの日が続く日照時間が少なくなる



高速道路・交通量の多い道路・鉄道の線路近く等、絶えず振動を受けて動作状態になる



夜間走行の頻度が多い



6

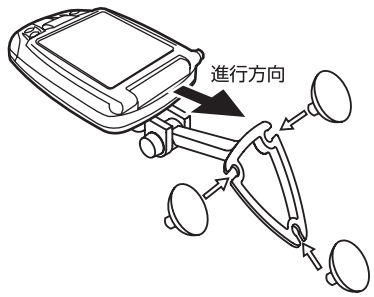
## 取付け方法

### フロントガラス/ダッシュボードへの取付け方法

- ・道路に対して平行、レーダーアンテナ部を進行方向に向けて取付けてください。
- ・レーダーアンテナ部前方に金属等、電波を遮断するものが無い場所に取付けてください。
- ・ソーラーパネル全面に太陽光が当たる場所に取付けてください。

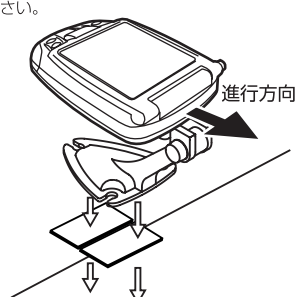
#### 1 フロントガラスへの取付け

付属の吸盤を3個使用してフロントガラスに取付けます。  
(注) 取付け面の汚れを十分に拭き取ってから取付けてください。



#### 2 ダッシュボードへの取付け

付属の両面テープを1個又は、2個使用してダッシュボード上に取付けます。両面テープは必要な形状にカットしてご使用ください。  
(注) 貼付け面の汚れを十分に拭き取ってから取付けてください。



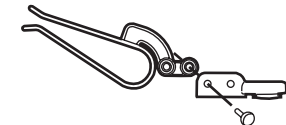
## 取付け方法

### サンバイザーへの取付け方法

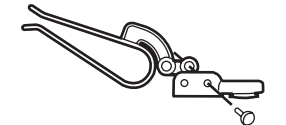
- ・道路に対して平行、レーダーアンテナ部を進行方向に向けて取付けてください。
- ・レーダーアンテナ部前方に金属等、電波を遮断するものが無い場所に取付けてください。
- ・ソーラーパネル全面に太陽光が当たる場所に取付けてください。
- ・各ネジ部はードライバーや、コイン等で確実に締めつけてください。

#### 1 サンバイザーにサンバイザーステーを取付け、レーダー位置（前後）の調整を行います。

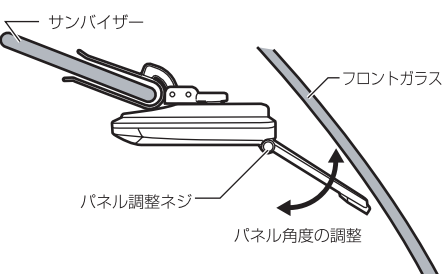
サンバイザーとフロントガラスのスペースが大きい場合



サンバイザーとフロントガラスのスペースが小さい場合



#### 2 パネル調整ネジを軽く緩めて、ソーラーパネルの角度を調整後、確実にパネル調整ネジを締めつけます。



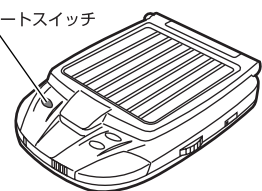
11

## 機能と操作方法

### テスト/ミュート機能

各ランプ、警報音の動作確認を行うテスト機能と、レーダー波受信中の警報音をミュート（消音）するミュート機能。（警）運転者は走行中に本製品の操作を行わないでください。必ず、同乗者の方が操作を行ってください。

テスト/ミュートスイッチ



テスト機能	本製品の電源オンで、警報を行っていない状態でテスト/ミュートスイッチ（T/M）を押します。約15秒間テスト動作します。
ミュート機能	警報中にテスト/ミュートスイッチ（T/M）を押します。各ランプ表示は警報状態のまま、警報音のみをミュート（消音）します。受信電波がなくなると、自動的にミュート解除します。

### オートボリュームダウン機能/オートディマー機能/ローバッテリーサイン機能/レベルリバース機能/デモンストレーション機能

- オートボリュームダウン機能・レーダー波を受信したのち約20秒後に、警報音量を小さくします。
- オートディマー機能・昼・夜等、周囲の明るさの変化によって各ランプの光量を2段階で自動調整します。
- ローバッテリーサイン機能・内蔵バッテリーの充電量が低下し充電の必要がある場合、ブザー音でお知らせします。
- レベルリバース機能・レベルメーターの点灯方向が左右逆になります。  
1. テスト/ミュートスイッチ（T/M）を長押し（2秒以上）します。※再度、同じ操作で解除します。
- デモンストレーション機能・本製品の一連の動きを繰り返しデモンストレーションします。  
(販売店様向け商品ディスプレイ時にご使用ください)  
1. 付属のシガープラグを本製品に接続します。  
2. テスト/ミュートスイッチ（T/M）を押したままの状態、電源スイッチをオンにします。※電源スイッチをオフにすると解除します。

13

## 機能と操作方法

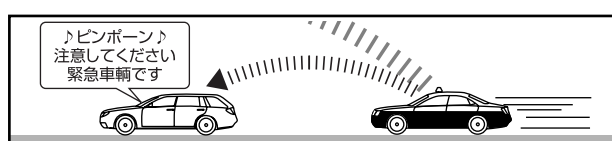
### カーロケーターシステム受信機能

#### ●カーロケーターシステムとは…

正式名称を「無線自動車動態表示システム」と言い、緊急車両に装備されたGPS受信機より算出した位置データを無線で定期的（間欠）に各本部の車輦管理センターへ送信するシステムです。本製品は緊急車両からの電波を受信し、音声で警報を行い、緊急車両の走行を妨げないよう安全な回避を促します。



現在、緊急車両の多くはGPSより算出した位置データを無線で定期的（間欠）に各本部に送信するカーロケーターシステムを装備しています。



本製品は各本部へ送信している電波を受信し、音声で警報を行い、緊急車両の走行を妨げないよう安全な回避を促します。

15

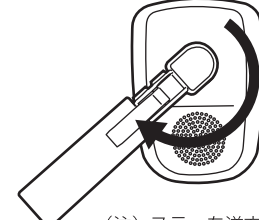
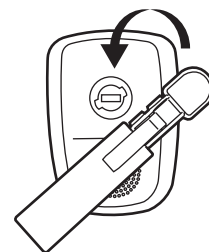
- (注)
- 一部地域または、一部緊急車両には、カーロケーターシステムが装備されていない為、本製品では受信できない事があります。
  - カーロケーターシステムは間欠で送信される為、実際の緊急車両の接近と受信タイミングにズレが生じる事があります。
  - 緊急車両は走行状態（緊急走行、通常走行、駐車）によって、電波の送信時間が増える為、実際の緊急車両の接近と受信タイミングにズレが生じる事があります。
  - 緊急車両がエンジン停止時は電波の送信を行わない為、本製品での受信はできません。
  - 送信電波の中継局、受信本部近辺では緊急車両の接近に関わらず受信する事があります。
  - 本製品が受信するカーロケーターシステムは、パトカー、覆面パトカーを中心に導入されており白バイ、救急車、消防自動車等には現在導入されておりませんが、将来的には導入する可能性があります。

## 取付け方法

### サンバイザーステーの取付け方法

#### 1 ステーのツメ部分を本体底面の凹にあわせてはめ込みます。

#### 2 ステーをゆっくりと矢印方向にまわし、向きを調整します。



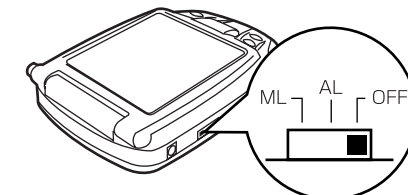
(注) ステーを逆方向にまわしたり、無理にまわしたりした場合、本製品を破損する恐れがあります。

10

## 機能と操作方法

### 電源スイッチ

本製品は、電源スイッチと警報音選択スイッチを兼用しています。



スイッチ位置	電源	警報音
OFF	オフ	—
AL	オン	アラーム音（電子音）
ML	オン	メロディー音

(注) 長時間、本製品をご使用にならない場合は電源スイッチをOFFにしてください。

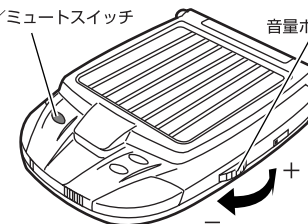
### 音量ボリューム（音量の調整）

本製品の警報音の音量調整を行います。

#### 1 本製品の電源が入った状態で、軽く振動をあたえながら、テスト/ミュートスイッチ（T/M）を押します。

#### 2 約15秒間、警報テスト動作を行います。音量を確認しながら、音量ボリュームで適度な音量に調整します。

テスト/ミュートスイッチ 音量ボリューム



12

## 機能と操作方法

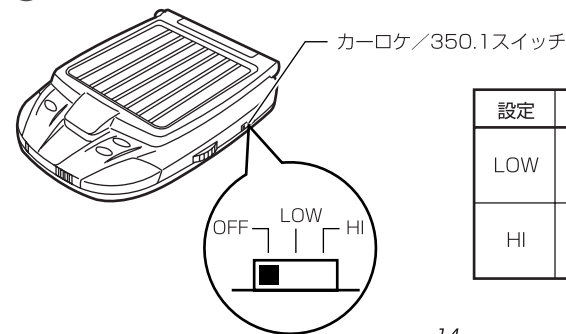
### 取締り用連絡無線 350.1MHz受信機能

#### ●取締り用連絡無線 350.1MHzとは…

取締り用連絡無線で使用する周波数帯で、速度違反取締りや、シートベルト装着義務違反取締り等でも使用することがあります。又、通話内容をコード化したデジタル無線を使用するケースもあり、音声受信ができない場合もあります。

#### ●本製品は、カーロケーターシステム受信機能と取締り用連絡無線受信機能を兼用のスイッチで設定します。

#### 1 カーロケ/350.1スイッチ（CL/350.1）を下図を参照して適切な範囲を設定してください。（注）カーロケーターシステム受信機能の受信感度設定と連動しています。（P16）



設定	受信感度	設定場所
LOW	低 (約半径300m)	市街地等
HI	高 (約半径500m)	高速道路等

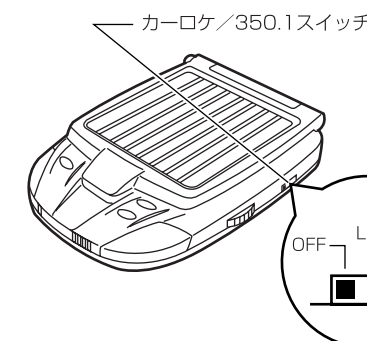
14

## 機能と操作方法

### カーロケーターシステム受信機能

#### ●カーロケーターシステム受信機能の設定

#### 1 カーロケ/350.1スイッチ（CL/350.1）を下記表を参照して適切な範囲を設定してください。（注）本製品は、カーロケーターシステム受信機能の受信感度設定と取締り用連絡無線受信感度設定が連動しています。（P14）



設定	受信感度	設定場所
LOW	低 (約半径300m)	市街地等
HI	高 (約半径500m)	高速道路等

16

## 機能と操作方法

### 振動検出の設定

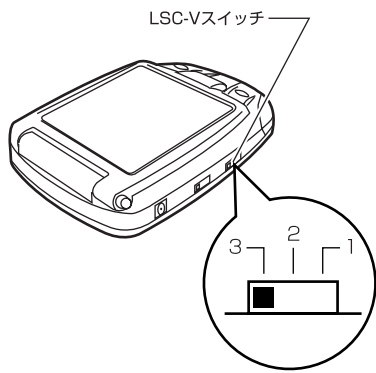
#### LSC-V機能

LSC-Vとは・・・ロー・スピード・キャンセラーバイブレーションの略称で、内蔵バッテリーの長時間使用を可能にする為、駐車時と走行時の振動差を検出し、駐車時には電源をオフし無駄な警報をカットし、走行中は電源オンする事で、内蔵バッテリーの電源節電を行う振動検出機能です。また、ASC-V設定時には検出した振動の大きさにレーダー受信感度の自動設定を行います。

- 1 本製品の電源が入った状態にします。
- 2 下記表を参照し、車両にあった状態にLSC-Vスイッチ（LSC-V）を設定してください。

LSC-Vスイッチ	振動検出感度	車種タイプ (目安)
1	低	ディーゼル
2	中	ガソリン/ディーゼル
3	高	ガソリン

注・目安として走行速度が約30km/h以上で、電源オン（感度ランプ点滅）となる位置に設定してください。  
 ・駐車中または、低速走行中（感度ランプ消灯時）は本製品の電源オフ状態の為、各警報は行いません。  
 ・振動の多い車で、LSC-Vを1に設定していても駐車時に電源オフできない車種の場合は、LSC-Vを1に設定してご使用ください。



17

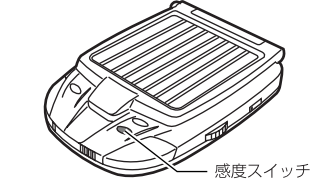
## 機能と操作方法

### レーダー受信感度の設定

●本製品はレーダーの受信感度をLOW（ロー）HI（ハイ）S-HI（スーパーハイ）の3段階に手動で設定するマニュアル設定機能と、走行振動を検出して適切な受信感度を自動設定するASC-V機能とがあります。  
 ※商品出荷時はマニュアル感度設定・S-HI（スーパーハイ）に設定してあります。

「マニュアル設定機能 感度スイッチを長押し（2秒以上）する毎に「マニュアル設定機能」と切替ります。」

- 1 本製品の電源が入った状態にします。
- 2 感度スイッチ（SENS）を長押し（2秒以上）し、マニュアル設定機能に切替ります。（アラーム音が「ピッピッ」と鳴ります）
- 3 感度スイッチ（SENS）を押す毎に「S-HI→HI→LOW」の順に受信感度が切替ります。右記表を参照し最適な受信感度を設定してください。



受信感度	感度ランプ	走行場所
LOW	赤	市街地
HI	橙	郊外地
S-HI	緑	高速道路
HYPER ※設定時のみ	青	高速道路

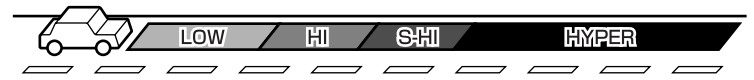
※ハイパー感度設定時（P18）  
 「S-HI→HI→LOW→HYP」の順に受信感度が切替ります。

19

## 機能と操作方法

### HYPER（ハイパー）感度

●本製品はレーダー受信感度をLOW（ロー）・HI（ハイ）・S-HI（スーパーハイ）以外に従来の2倍の距離を感知できるHYPER（ハイパー）感度を設定することができます。※当社比



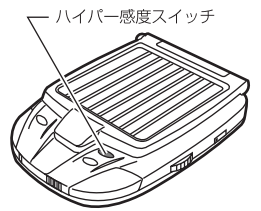
### ハイパー感度設定

- 1 本製品の電源が入った状態にします。
- 2 ハイパースイッチ（HYP）を押す毎にハイパー感度が「ON/OFF」と設定されます。

**ハイパー感度オン** アラーム音が「ピッ」と鳴ります。感度ランプが約3秒間、青色ではやい点滅をします。

**ハイパー感度オフ** アラーム音が「ピッピッ」と鳴ります。

- 3 ハイパー感度を設定することで、受信設定をマニュアル設定、ASC-V設定のどちらでもハイパー感度が使用できるようになります。



18

## 機能と設定方法

### レーダー受信感度の設定

#### ASC-V機能

ASC-Vとは・・・オート・センシティブ・コントローラーバイブレーションの略称で、走行中の速度変化による車種振動の変化を検出して走行速度にあわせて適切な受信感度を自動で設定する機能です。

「感度スイッチを長押し（2秒以上）する毎に「マニュアル設定機能」と切替ります。」

- 1 本製品の電源が入った状態にします。
- 2 感度スイッチ（SENS）を長押し（2秒以上）し、ASC-V機能に切替ります。（アラーム音が「ピッ」と鳴ります）



（注）・ASC-Vを設定する場合、LSC-Vの設定（P17）を行ってください。  
 ・車種振動が極端に大きな車や、駐車時、走行時の振動差が小さい車はASC-V機能が正常に働かない事があります。そのような場合、受信感度はマニュアル設定（P19）でご使用ください。  
 ・本製品の取付け位置（フロントガラス、ダッシュボード等）によっても振動の検出度合いが変わる事があります。

※ハイパー感度設定時（P18）  
 走行速度に応じて「LOW→HI→S-HI→HYP」の順に受信感度の自動設定を行います。

20

## 警報方法

### カーロケーター警報

●カーロケーターシステムを受信した場合、下記のように警報を行います。

音声警報内容	カーロケ/350.1ランプ
ピンポン 注意してください 緊急車両です。	約5秒間点滅

※一定間隔でカーロケーター警報が数回鳴る場合、同一方向に緊急車両が走行している事が考えられます。  
 ・カーロケーター警報中にレーダー波を受信した場合、レーダー警報を優先します。



カーロケ/350.1ランプ点滅

### 350.1MHz警報

●取締り用連絡無線（350.1MHz）を受信した場合、下記のように警報を行います。

音声警報内容	カーロケ/350.1ランプ
ピンポン 無線を受信しました。 ～無線会話受信～	約5秒間点滅

※350.1MHzのデジタル無線を受信した場合は、無線会話受信が行えません。ノイズ音として出力されます。  
 ・350.1MHz警報中でもレーダー警報又は、カーロケ警報を優先して行います。



カーロケ/350.1ランプ点滅

21

## 警報方法

### レーダー受信時の警報

●レーダー式取締り機に接近した場合、下記の様に警報を行います。

レーダー式取締り機 迄の距離 (電波の強さ)	遠い(弱い)	近い(強い)
レベルメーター (緑)	点滅 (レーダー波の強さに応じて順次点滅)	
コーナランプ	緑点灯	橙点灯
警報音	アラーム	ピッピッ・・・ピッピッ・・・ (スローテンポ)
	メロディー	ピッピッ・ピッピッ・ピッピッ (アップテンポ)
	LOW (赤)	警報音が鳴らない
	HI (橙)	警報音が鳴る
受信感度	S-HI (緑)	警報音が鳴る
	HYP (青)	警報音が鳴る
ステルス波受信	レベルメーターが交互に点滅し、断続音で3秒間警報します。(ピロピロ・・・)	

22

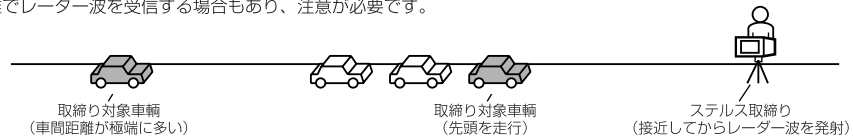
## 取締りの種類と方法

### レーダー式取締り

●代表的なレーダー式取締りについての説明。

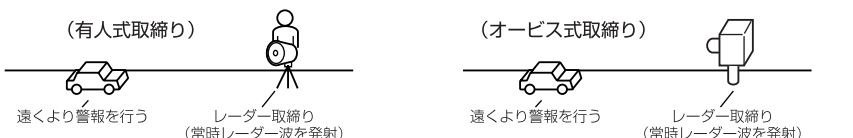
#### (1) ステルス式取締り方法 (有人式取締り)

取締り対象の車が取締り機の近くに接近してから、レーダー波を放射する狙い撃ち的な取締り方式です。走行車両の先頭や、前方走行車との車間距離が極端に長い場合等に測定されるケースが多く、100m以下の至近距離でレーダー波を受信する場合もあり、注意が必要です。



#### (2) レーダー式取締り方法 (有人式取締り/オービス式取締り)

レーダー波を常時放射し、通過する車両の速度を測定します。また、オービス式の場合は違反車両を自動的に写真撮影します。多くの取締り現場に採用しておりレーダー波も500m以上の距離から受信することができます。



23

## 取締りの種類と方法

### レーダー式取締り

#### (3) 新Hシステム式取締り方法 (オービス式取締り)

レーダー波を間欠放射し、通過する車両の速度を測定し違反車両の写真撮影を自動で行い警察本部の大型コンピュータへ専用回線で転送されます。レーダー波も500m前後で受信します。



#### (4) 移動オービス式/バトカー車載式

ワンボックス車の後部にレーダー式オービスを搭載し、違反車両を取締る移動オービスとバトカーの赤色灯を改良して取締り機を搭載したバトカー車載式があります。どちらも出力の強いレーダー波を放射しますので、500m以上の距離から受信することができます。(注) 移動オービスで、本製品で感知できない光電管式もあります。

24

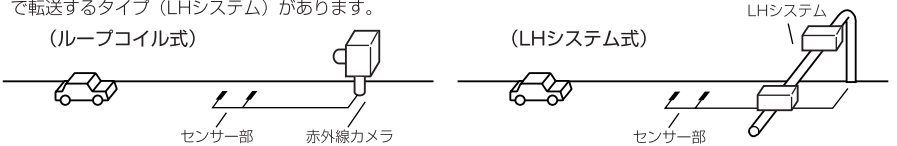
## 取締りの種類と方法

**レーダー式以外の取締り** ※本製品では警報が行えません。ご注意ください。

●代表的なレーダー式以外の取締りについての説明。

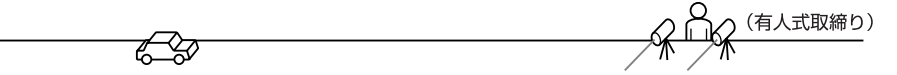
### (1) ループコイル式/LHシステム式取締り方法（オービス式取締り）

測定区間の始めと終わりに磁気スイッチ（金属センサー）を路面下、中央分離帯等に埋め込み、通過時間から速度を算出し、違反車輛の写真を撮影するタイプと、新Hシステムと同様に警察本部の大型コンピューターへ専用回線で転送するタイプ（LHシステム）があります。



### (2) 光電管式取締方法（有人式取締り／オービス式取締り）

2点間に置かれたセンサーの通過時間から速度を算出し、違反車輛を特定します。



### (3) 追尾式取締り方法

パトカー・覆面パトカー・白バイ等が、一定の車輛間隔を保った状態で後方を追尾し走行速度を測定し記録します。

## その他

**故障かな？と思ったら／製品仕様**

●製品に異常があった場合、下記内容をご確認ください。

症状	ここをチェックしてください。	参照ページ
電源が入らない	電源スイッチはオンになっていますか？ 十分な充電がしてありますか？ LSC-V機能は正しく設定してありますか？	12ページ 7ページ 17ページ
警報をしない レーダー波の警報をしない	音量は正しく設定してありますか？ レーダー式（電波式）取締り機ですか？ LSC-V機能、受信感度は正しく設定してありますか？	12ページ 23.24.25ページ 17ページ
カーロケ警報を行わない	カーロケスイッチは正しく設定されていますか？ 対象はカーロケシステム搭載の緊急車輛ですか？ 駐車時、低速走行時の緊急車輛はカーロケ電波の送信休止周期が長い為受信しにくい場合があります。	16ページ 15ページ
350.1警報を行わない （生会話を受信できない）	カーロケ/350.1スイッチは正しく設定されていますか？ 350.1MHzのデジタル無線ではないですか？	14ページ 14ページ
警報音が鳴り続ける	内蔵バッテリーの電池容量が不足していませんか？ （ローバッテリーサイン機能）	13ページ

●製品仕様

電源電圧	3.6V（高容量ニッケル水素電池）	受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
電池容量	300mA	検波方式	FMトラッキングタイムカウンタ式
充電入力電圧	D.C12V～24V	動作温度範囲	-10℃～+80℃
無振動待機時消費電流	1mA以下	充電電圧範囲	-5℃～+70℃
最大消費電流	100mA以下	本体ケース寸法（mm）	78.0（W）×110.0（L）×30.0（H）
受信周波数	Xバンド（10.525GHz） Kバンド（24.200GHz） カーロケシステム（407MHz帯） 取締り連絡無線（350.1MHz）	※ソーラーパネル収納時 重量（g）	150.0g